

主 題：
ローマ人への手紙第5章から第8章
——聖書の核心

標 語

ローマ第5章から第8章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています。「命」と「死」という言葉は、第5章から第8章で、二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。

わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覧します。

正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、わたしたちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しさの中を歩くことです。

ローマ第8章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える霊に関してです。この霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリストと完全に同じにならせます。

ローマ人への手紙第5章から第8章における命の路線と死の路線

聖書：ローマ 5:10, 12, 14, 17-18, 21. 6:4, 9, 16, 21-23.

7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38

I. ローマ第5章から第8章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています：

- A. これら二つのかぎとなる言葉(「命」と「死」)は、ローマ第5章から第8章において繰り返し述べられています。命(5:10, 17-18, 21. 6:4, 22-23. 7:10. 8:2, 6, 10-11, 38)と死(5:12, 14, 17, 21. 6:9, 16, 21, 23. 7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38)は、第5章から第8章で、命の路線と死の路線という二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。
- B. 命の木と知識の木(死の木)は、二つの路線をもたらします。それは、命の路線と死の路線であり、聖書全体を貫いており、啓示録において終わります。命は、命の木をもって始まり(創 2:9)、命の水の都である新エルサレムをもって終わり、命の木(啓 22:1-2)と命の光(21:23. 22:5)と命の栄光(21:10-11, 23)を伴っています。死は、知識の木をもって始まり(創 2:17)、火の池をもって終わります(啓 20:10, 14)。
- C. 命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです(創 2:9, 16. 啓 2:7)。召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊富になります。
- D. しかし、キリストを享受するには、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛することが必要となります。もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台しよくだいはわたしたちから除き去られます——啓 2:4-7。
- E. 初めの愛を回復することは、すべての事で主イエスを第一と考えることです。わたしたちがキリストを自分の生活の中ですべてとするなら、これは、わたしたちが初めの愛を失うことに勝利したことを意味します——コロサイ 1:18 後半. ヨハネ 14:21, 23. 詩 90:1. 91:1. ペリピ 3:13-14。
- F. エペソに在る召会への主の語りかけは、英語の「L」の文字で始まる四つの重要な言葉で要約することができます。それは「愛(love)」、「命(life)」、「光(light)」、「燭台(lampstand)」です。わたしたちはあらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスに首位を与えて、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、わたしたちは彼を命の木として享受します。

そして、この命は直ちに命の光となります(ヨハネ 8:12)。そうすれば、わたしたちは、日常生活の中で団体的に燭台として輝きます(啓 2:1-7)。

G. 悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受することをしないことです(参照、イザヤ 55:1-2, 6-7, 57:20-21)。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触することをせず、彼を取らず、彼を受けず、彼を味わわず、彼を享受しません。神の目に、これほど邪悪なことはありません(エレミヤ 2:13)。

II. 今日、信者は、小規模なエデンの園であり、霊の中に命の木としての神を持っており、肉の中に知識の木としてのサタンを持っており、彼の思いが中間にあります。わたしたちは、霊にいるか肉にいるかのどちらかです。わたしたちがいるべき第三の場所はありません。こういうわけで、わたしたちは思いを霊に付けなければならないのです——ローマ 8:6:

A. 人の体は本来、純粋なものでしたが、人の墮落を通して、サタンが彼自身を人の中へと注入し、人の体は肉となりました——創 3:6. ローマ 7:18 前半:

1. わたしたちの体は「罪の体」(6:6)また「この死の体」(7:24)です。罪の体は、神に対して罪を犯すことではとても活発で、力に満ちています。しかし、この死の体は、神を喜ばせるために活動することにおいては弱く、無能です(18 節)。
2. わたしたちがまだ生きている限り、わたしたちの贖いの日まで、罪と死の体は常にわたしたちと共にあります——参照、8:23。
3. 肉は、罪と死とサタンとの「集会所」また複合体です。肉には望みはなく、決して改良されることができません——7:17-18, 21. 参照、ヨハネ 17:15。

B. 神のエコノミーのために、神は彼の知恵と主権の中で、わたしたちの罪深く醜い肉を用いて、わたしたちを強いてわたしたちの霊に戻させます。それはわたしたちが、わたしたちの中での神の増し加わりによって、神の建造のためにさらに多くその霊を獲得するためです——コロサイ 2:19. ゼカリヤ 4:6:

1. 法理的に言えば、サタンとわたしたちの肉は十字架上で一度で永遠に罪定めされましたが(ローマ 8:3. ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. II コリント 5:21)、神は肉がわたしたちにとどまることを許し、肉がわたしたちを助け、わたしたちを強いて、霊の中のキリストに戻らせ、わたしたちがもはや肉を頼みとしないようにします(ピリピ 3:3)。
2. 罪深く醜い肉による助けがないなら、わたしたちは必死になって主を獲得しようとせず、また彼がわたしたちの中へと造り込まれるようにしないでしよう——ローマ 7:24-25. 8:2, 6, 13。

3. わたしたちの目標は、聖別や靈性や勝利であるかもしれませんが、神の目標は、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを栄光なものにすることです。しばしばわたしたちは困難な状況にあるとき、さらに主に開き、さらに進んで彼に立ち返り、彼にご自身をわたしたちの中へと造り込んでいただくようになります——28-29 節、エペソ 5:27。
4. わたしたちが彼を追い求めるなら、肉という罪深い複合体でさえ、主を獲得することにおいてわたしたちの助けとなります。わたしたちは頻繁に失敗するので、必死になって靈に戻るのです。そうすれば、このようにして、わたしたちはさらに多くその靈を獲得します——参照、出 23:23, 29-30, 士 2:21—3:4。
5. わたしたちの困難、敗北、失敗、落胆はわたしたちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのはただ、わたしたちを強いて靈の中のキリストに戻らせ、わたしたちを靈の中へと押し込み、必死になって靈の中へと入らせ、目を覚まして靈の中にとどまるようにさせるということだけです——マタイ 26:41, エペソ 6:17-18。
6. 主は、わたしたちが勝利を得るかどうかには注意していません。主はただ一つの事だけに注意しています。それは、わたしたちが思いを靈に付けることによって、その靈としてのキリストを獲得することです——ピリピ 3:8, II コリント 3:17-18, ローマ 8:6。

III. わたしたちは、ローマ第 5 章ではアダムの中におり、第 6 章ではキリストの中におり、第 7 章では肉の中におり、第 8 章では靈の中にいます。第 5 章のアダムは第 7 章の肉の中で経験され、第 6 章のキリストは第 8 章の靈の中で経験されます：

- A. わたしたち、キリストにある信者は、キリストの死を通してアダムから出て、キリストの復活を通してキリストの中へと、事実においても地位においても移されています——6:3-8：
 1. アダムの中で、わたしたちは罪を受け継ぎました。その罪は、わたしたちを罪人に構成しています(5:12 前半, 19 前半)。アダムの中で、わたしたちは死を受け継ぎました。その死は一方で、わたしたちを弱くして、神を喜ばせる事をできなくさせ、もう一方で、わたしたちを王として支配しています(12 後半, 14 前半, 17 節前半)。またアダムの中で、わたしたちは律法の下で死に至る罪定めを受け継ぎました(16 節前半)。
 2. キリストの中で、わたしたちは以下の賜物を受けました。すなわち、義と、命と、恵みの中で命に至る義認を受けました。この命の中で、わたしたちは恵みと共に王として支配し、万物を治めます——17 節後半, 18 節後半, 21 節。
- B. わたしたち、キリストにある信者は、実行上の経験的な移行を持ちます。

すなわち、わたしたちはキリストと共に十字架につけられることを通して(6:6. ガラテヤ 2:20)、肉(実行上の経験的なアダム)から移し出されて、命の霊の法則としてのキリストとの有機的な結合を通して(ローマ 8:2, 16 節前半. I コリント 6:17)、その霊(実行上の経験的なキリスト)の中へと移し入れられます。

C. キリストご自身は神の命、永遠の命です(ヨハネ 14:6 前半, 11:25. I ヨハネ 1:2)。彼が来たのは、わたしたちが命を得、しかも豊かに得るためです(ヨハネ 10:10 後半)。彼が命を解き放つ死を遂げて、命を分与する復活の中へと入り(12:24)、命を与える霊と成って(I コリント 15:45 後半)、命の霊の法則として(ローマ 8:2)、わたしたちの霊、思い、死ぬべき体に命を与えるのは、わたしたちが命によって飲み尽くされて、他の人に命を供給する者となるためです(10, 6, 11 節. II コリント 5:4. I ヨハネ 5:16 前半, ヨハネ 6:63. 使徒 5:20)。

IV. わたしたちは命の路線にとどまるために、命の木としてのキリストを享受する道を取らなければなりません。以下のリー兄弟の極めて重要な交わりを参照してください：

命の木としてのキリストを享受する道を取る—— リー兄弟からの極めて重要な交わり

「1943年5月……わたしは深刻な結核に感染しました。……わたしは二年半のわたしの病の期間に、命の木を見ました。その二年半にわたしは、主の回復において、また主の働きにおいて、わたしたちが命に欠けていることを見ました。あらゆる種類の問題は、それが何であっても、命の不足の結果です。わたしはこのことを見た時、非常に後悔し、主の御前で多く告白し、徹底的な悔い改めを持ち、また主の御前で多くの対処を持ちました。……命の木についてのメッセージは、南京において多くの聖徒たちを救い、また多くの兄弟姉妹を解放しました。上海に在る召会における四年間の騒動のゆえに、聖徒たちは長年にわたって落胆し、意気消沈して、何もすることができませんでした。これらのメッセージは彼らの霊を解放し、彼らの心を照らしました。……主に感謝します。命の木についてのメッセージを通して、上海に在る召会はいやされました。……命の木についてのメッセージは、上海に在る召会の復興のために基礎を据えました」——ウイットネス・リー全集、1981年、第2巻(上)、「主の回復の歴史と啓示」、第8編。

「もしわたしたちが神を享受する道を取りたいなら、観念を変えなければなりません。……もしわたしたちが神を享受する実際の中へと入りたいなら、支配するビジョンを見なければなりません。……わたしが四十歳になってはじめて、主はわたしに彼を享受する道を啓示してくださいました。わたしは自分の二十年間の

時間と労力の大部分が無駄であったことに失望しました。わたしの祈りの大部分は価値がなく、聖書や他の霊的書物を読むのに費やした時間も価値がありませんでした。この時わたしは、わたしたちの働きの道が間違っており、またわたしたちの霊的な追求の道も間違っていたことに気づきました。

「間違った道を取ることから大きな損害を被ったので、わたしは他の人たちに同じ間違いを繰り返してもらいたくありません。わたしが望むのは、他の人たちが神を享受する道を取ることができることです。わたしは聖徒たちにもはやこれ以上、間違った道を取らないように懇願します。わたしたちは以前のわたしたちの追求の道を考慮すべきです。わたしたちは観念において徹底的な転換を持たなければなりません。わたしたちは支配するビジョンを持つ必要があります」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

©2025 Living Stream Ministry

わたしたちの義認の結果——

わたしたちの命としてのキリストにある神に対する満ち満ちた享受

聖書：ローマ 5:1-11

- I. 義認は、神の義の標準にしたがってわたしたちを良しと認める、神の行動です。信者たちの義は、彼ら自身において彼らが所有する状態ではなく、彼らが結合されたパースン、すなわち生けるキリストご自身です：
- A. わたしたちはキリストの中へと信じるとき、神の赦しを受け(使徒 10:43)、そして神は、キリストをわたしたちの義とすることによって、またわたしたちの義の衣であるキリストをわたしたちに着せることによって(イザヤ 61:10. ルカ 15:22. エレミヤ 23:6. ゼカリヤ 3:4)、わたしたちを義とすることができます(ローマ 3:24, 26)。
 - B. 命は神の救いの目標です。こういうわけで、義認は「命のもの」です。義認を通して、わたしたちは神の義の標準に達し、それと一致します。それによって、彼は今、ご自身の命をわたしたちの中へと分け与えることができます——ローマ 5:18。
- II. わたしたちの義認の結果は、わたしたちの命としてのキリストにある神の満ち満ちた享受です——ローマ 5:1-11：
- A. わたしたちの義認の結果は、以下の六つのすばらしいものに具体化されています。すなわち、愛(5節)、恵み(2節)、平和(1節)、望み(2節)、命(10節)、栄光(2節)であって、これらはわたしたちの享受のためです。これらの節はまた三一の神を、すなわち、聖霊(5節)、キリスト(6節)、神(11節)を啓示しており、それはわたしたちの享受のためです。
 - B. キリストの贖う死を通して、神は罪人であるわたしたちを義とし、また彼の敵であるわたしたちをご自身に和解させられました(1, 10-11節)。さらに、「わたしたちに与えられている聖霊を通して、神の愛がわたしたちの心の中に注がれて」います(5節)：
 - 1. わたしたちは患難を受け、貧しくあって、圧迫されるかもしれませんが、わたしたちの内側にある神の愛の存在を否定することはできません。キリストご自身である命の路線にとどまるために(ヨハネ 14:6前半)、わたしたちは自分自身を神の愛、すなわち神ご自身(Iヨハネ 4:8, 16)の中に保つ(ユダ 20-21節)必要があります。
 - 2. わたしたちは、神が与えてくださった愛の霊を再び燃え立たせる必要があります。それによって、わたしたちは燃える愛の霊を持って、今日の召会の墮落に打ち勝つことができます。わたしたちの霊を再び燃え立たせるとは、絶えずわたしたちの霊を活用する習慣を建て上げて、わたし

たちの霊の中のその霊である主との接触の中にとどまることです——Ⅱテモテ 1:6-7, 4:22。

C. 「わたしたちも、いま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ……ます」(ローマ 5:2)。わたしたちは信仰によって義とされ、恵みの領域の中に立っているのです。「わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています」(1 節)：

1. 神「に対して」平和を持っているとは、わたしたちが信仰によって義とされることを通して神の中へと入る行程がまだ完了しておらず、今もなお神の中へと入る途上にあることを意味します。ルカ第 7 章によれば、多く赦されたので「多く愛した」罪深い女(47-48 節)に、救われるために「平和の中へと行きなさい」(50 節、文字どおり)と、主イエスは告げました。
2. わたしたちは、いったん義認の門を通ったなら、平安の道を歩く必要があります(ローマ 3:17)。わたしたちが思いを霊に付けるとき(わたしたちの霊を顧慮し、わたしたちの霊を用い、わたしたちの霊に注意を払い、神の霊との交流の中でわたしたちの霊によって神と接触し、わたしたちの霊の中で歩き、生きることによって)、わたしたちの思いは平安となり、安息と解放と明るさと心地よさという内なる感覚をわたしたちに与えます(8:6)。

Ⅲ. わたしたちは恵みの領域の中で、神をわたしたちの勝ち誇ること、また歓喜として持って、享受し喜びます。神の中で勝ち誇るとは、「患難の中でも勝ち誇る」ことです。「それは、患難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は望みを生み出すことを知っているからです」——ローマ 5:3-4, 11：

- A. 患難は、実は恵みの具体化であり、恵みの甘い訪れです。患難を拒絶することは、恵みを拒絶することです。恵みはわたしたちの分け前としての神であり、わたしたちの享受のためです。恵みはおもに患難という形でわたしたちを訪れ、それによって神はすべて(すべての人、すべての事柄、すべての状況、すべての境遇、すべての環境)を共に働かせて益とならせます。すなわち、わたしたちがさらにキリストを獲得して、彼をわたしたちの存在の中へと造り込んでいただき、それによってわたしたちが新陳代謝的に造り変えられ、キリストのかたちと同形化されるようにし、また完全な子たる身分へともたらされるようにします——Ⅱコリント 12:7-9, ローマ 8:28-29。
- B. 患難は忍耐という結果になり、忍耐は練達、すなわち試みられた性格と良しと認められた価値を生み出します(ピリピ 2:19-22)。パウロは、彼と彼の同労者たちが「神によって良しと認められ、福音を託された」と言っています(Ⅰテサロニケ 2:4)。神は絶えず彼らの心を吟味し、調べ、試みたので、彼らの福音の語りかけは、彼ら自身から出て人を喜ばせようとしたのでは

なく、神から出て神を喜ばせようとしてしました：

1. I ペテロ第1章7節が言っているのは、わたしたちの信仰が試されることは、「朽ちる金が火(試練と苦難による火)によって試されることよりはるかに尊^[い]」ということです。原料のままの金が純化する火の燃焼を受けるとき、だれからも容易に良しと認められる質を得ます——マラキ3:3。
 2. 主はわたしたちに、代価を払って火のような試練を通して金の信仰としてのご自身を得てほしいのです。それは、わたしたちが真の金、すなわち、神聖な性質を伴う神聖な命としてのキリストご自身にあずかって、彼のからだを建造するためです。こうして、わたしたちは純金の燭台^{しゆくたい}となって、金の新エルサレムを建造することができます——啓3:18. 1:20. 21:18, 23. II ペテロ1:4。
 3. 主を愛するある聖徒たちは、自分たちがある程度の命と光を持っているので、主のために働くのにふさわしい者であると考えていますが、彼らは生のままであり、良しと認められた質、すなわち、患難と試みを耐え忍ぶことから生じる、良しと認められた質に欠けています。この質は彼らの供給にあずかる人たちに、幸い、甘さ、心地よさを感じさせます。
 4. わたしたちはみな次のように祈らなければなりません、「主よ、わたしを良しと認められた者にしてください」。そのとき、主はわたしたちを良しと認められる者にする環境を起こされるでしょう。わたしたちはキリストの奴隷ですが、良しと認められることに欠けています。この事は神を悩ませ、わたしたちに損害を与え、聖徒たちと神の家族を煩わせます。わたしたちは、わたしたちの光とわたしたちの賜物によって聖徒たちを助けますが、良しと認められることに欠けていることによって、彼らを傷つけます——マタイ24:45-51。
- C. 良しと認められることに加えて、わたしたちは望みを持ち(ローマ5:4)、神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています(2節)：
1. わたしたちは恵みの中に立っており、平和の中を歩いていますが、まだ十分に栄光の中に、すなわち、表現された神ご自身の中にいません。「わたしたちの受けるつかの間の軽い患難は、ますます卓越した永遠の重い栄光を、わたしたちにもたらす」のです——II コリント4:17。
 2. あらゆる恵みの神は、キリスト・イエスにあってわたしたちをご自身の永遠の栄光の中へ召してくださいました。わたしたちは今ここで、わたしたちの栄光の望みとしての、わたしたちの霊の中に住んでいるキリストを享受しています——I ペテロ5:10. I テサロニケ2:12. コロサイ1:27. ピリピ3:21。
 3. 主は日ごとにわたしたちを聖別することによって、わたしたち、彼の多

くの子たちを栄光へ導き入れつつあります(ヘブル 2:10-11)。そして、わたしたちは日ごとに、ある段階の栄光から別の段階の栄光へと、徐々に造り換えられつつありますが、それは、わたしたちの心を主に向け続けて、イエス・キリストの御顔にある神の栄光を見つめることによります(IIコリント 3:16-18, 4:6 後半)。

- D. わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覧します——ローマ 5:10, 12:5, 16:1, 4-5, 16, 20。

©2025 Living Stream Ministry

キリストの死の様と復活の様

聖書：ローマ 6:3-5, 5:17, ガラテヤ 3:27

- I. 「キリスト・イエスの中へとバプテスマされたわたしたちはみな、彼の死の中へとバプテスマされた」——ローマ 6:3 :
- A. バプテスマは形式や儀式ではありません。それはわたしたちとキリストとの一体化を表徴します——3 節。
 - B. バプテスマを通して、わたしたちはキリストの中へと浸され、キリストをわたしたちの領域とします。それによってわたしたちはキリストの死と復活の中で彼と結合されて一となります。
 - C. わたしたちは最初の人(I コリント 15:45, 47)であるアダムの領域の中で生まれましたが、バプテスマを通して、第二の人(I コリント 15:47)であるキリストの領域の中へと移されました(1:30, ガラテヤ 3:27)。
 - D. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされる時、彼の死の中へとバプテスマされず——ローマ 6:3。
 - E. 彼の死はわたしたちをこの世から、また暗やみのサタンの力から分離し、わたしたちの天然の命、わたしたちの古い性質、わたしたちの自己、わたしたちの肉、さらにはわたしたちの歴史全体を終結させました。
- II. 「こういうわけで、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、わたしたちも命の新しさの中を歩くためです」——ローマ 6:4 :
- A. わたしたちの古い人はキリストと共に十字架につけられ(6 節)、そしてバプテスマされることを通して、わたしたちの古い人は彼と共に葬られて、死に渡されました。
 - B. 天然の領域において人はまず死んで、次に葬られます。しかしパウロの言葉は、霊の領域においてわたしたちはまず葬られ、次に死ぬことを示しています。
 - C. わたしたちは直接死ぬのではなく、バプテスマを通してキリストの死の中へと入ります。
 - D. キリストと彼の死は一です。
 - E. キリストから離れて、わたしたちは彼の死の中へとバプテスマされることは決してできませんでした。なぜなら、彼の効力ある死の要素は、彼の中に、すなわち、復活した、すべてを含む方の中にだけ見いだされるからです——参照、ヨハネ 5:29, 11:24-25, 使徒 1:22, 2:31。
 - F. ローマ第 6 章 4 節の「御父の栄光」は、神性の現れを指しています。

G. バプテスマの後、わたしたちは復活の中で新しい人になっています——ピリピ 3:10。

H. 復活は将来の状態だけではなく、現在の過程でもあります。

I. 命の新しさの中を歩くことは、今日、復活の領域の中で生活し、命の中で王として支配することを意味します——ローマ 6:4, 5:17。

J. このような生活は、わたしたちの中のアダムに属するものをすべて対処し、ついにはわたしたちが完全に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるに至ります——12:2, 8:29。

III. 「もしわたしたちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです」——ローマ 6:5 :

A. 「彼と結合して生長した」は、有機的な結合を示しており、この結合の中で生長が起こります。それによって一方は、もう一方の命と特徴にあずかります——5 節前半。

B. キリストとの有機的な結合の中で、キリストが経過したものはすべて、わたしたちの歴史となっています。

C. 彼の死と復活は、今やわたしたちのものです。なぜなら、わたしたちは彼の中におり、彼と有機的に結合されているからです。これが接ぎ木です——11:24。

D. そのような接ぎ木は、わたしたちのすべての消極的な要素を排出し、神が創造されたわたしたちの機能を復活させ、わたしたちの機能を引き上げ、わたしたちの機能を豊かにし、わたしたちの全存在に浸透して、わたしたちを造り変えます。

E. キリストの死の様は、ローマ第 6 章 4 節で述べられているバプテスマです。キリストの復活の様は、4 節で述べられている命の新しさです。

F. 「彼の復活の様の中で」(5 節)は、将来の、客観的な復活を指しているのではなく、現在の生長の過程を指しています。

G. わたしたちはバプテスマされた時、キリストの死の様の中で彼と結合して生長しました。今や彼の死を通して、わたしたちは彼の復活の中へと生長しつつあります。

H. キリストの死の要素が、彼の中でだけ見いだされるように、キリストの復活の要素も、キリストご自身の中でだけ見いだされます。彼ご自身が復活です——ヨハネ 11:25。

I. 正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、わたしたちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しさの中を歩くことです——ローマ 6:4。

IV. 「キリストの中へとバプテスマされた者はみな」——ガラテヤ 3:27 :

A. バプテスマには四つの面があります。それは父、子、霊の御名の中へとバ

プテスマされること(マタイ 28:19)、キリストの中へとバプテスマされること(ガラテヤ 3:27)、キリストの死の中へとバプテスマされること(ローマ 6:3)、キリストのからだの中へとバプテスマされることです(1コリント 12:13)。

- B. バプテスマは、悔い改めた人々を彼らの古い状態から新しい状態へともたらし、彼らの古い命を終結させ、キリストの新しい命、またキリストの中にある新しい命をもって、彼らに新しい開始を持たせます——ローマ 8:2, 10。
- C. バプテスマには二つの面、すなわち、見える面と見えない面があります：
1. 見える面は水によるものであって、見えない面は聖霊によるものです——使徒 2:38, 41. 10:44-48。
 2. その霊による見えない面がなければ、水による見える面はむなしいです。水による見える面がなければ、その霊による見えない面は抽象的であり、実行上ものではありません。両方とも必要です。
- D. 三一の神の中へとバプテスマされることは、キリストの中へとバプテスマされることです——ガラテヤ 3:27：
1. わたしたちが神の子たちであるのは、わたしたちがキリストの中にいるからです。わたしたちがキリストの中にいるのは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされたからです——ローマ 8:10, 14. ガラテヤ 3:26. 4:7。
 2. キリストの中へとバプテスマされることは、キリストの中にいる道です——3:27。
 3. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされたので、今や彼との有機的な結合を享受しています。それはわたしたちの全存在を造り変えることができます——ローマ 12:2。
 4. ガラテヤ第3章の終わりでパウロが、キリストの中へとバプテスマされて、キリストを着ることについての言葉で結んでいることは意義深いです——27節。
 5. パウロがバプテスマについての言葉で結んでいるという事実が示していることは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされ、キリストを着ることによってのみ、この章で取り扱われていることを経験することができるということです——27節。
 6. キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着ました——27節。
 7. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされたので、今やわたしたちを覆うキリストを持っています。
 8. 一方で、バプテスマにおいて、わたしたちはキリストの中へと浸し込ま

れています。もう一方で、バプテスマにおいて、わたしたちはキリストを着ています。

9. わたしたちの多くは、わたしたちがキリストの中へとバプテスマされていることと、彼をわたしたちの衣服、わたしたちのおおいとして着ていることとを、力強く証しすることができます——27 節。

©2025 Living Stream Ministry

新しい夫

聖書：ローマ 7:2-6

I. キリストは新しい夫です——ローマ 7:2-6：

- A. 再生された存在として、男の信者も女の信者もキリストが彼らの夫であり、そして彼らは彼の妻の一部です。
- B. 真のクリスチャンはみな、キリストが彼らの夫です。しかし、残念なことに、多くの者は、彼を夫として知っていません。

II. わたしたちの古い人、古い夫は、十字架につけられました：

- A. ローマ第7章2節から4節前半は、二人の夫を見せています：
 - 1. 第一の夫、古い夫は、第6章6節で述べられている古い人であり、キリストと共に十字架につけられました。
 - 2. 第二の夫、新しい夫は、第7章2節から4節で述べられており、それはキリストです。
- B. わたしたちの古い人、すなわちわたしたちの古い夫は、キリストと共に十字架につけられたので、わたしたちは彼の律法から解放されており、そして新しい夫、すなわち、永遠に生きている方であるキリストに結合されています。
- C. 信者として、わたしたちは二つの身分を持っています：
 - 1. 第一のものは、墮落した古い人としてのわたしたちの古い身分です。この古い人は、神に依存する妻という本来の地位を捨てて、夫またかしらという思い上がった地位を取って、神から独立しています。
 - 2. 第二のものは、再生された新しい人としてのわたしたちの新しい身分です。この新しい人は、神に対する真の妻としての、わたしたちの本来の正しい地位へと回復されており、神に依存し、神をわたしたちのかしらとしています——イザヤ 54:5、I コリント 11:3。
 - 3. わたしたちはもはや古い夫という身分を持っていません。なぜなら、わたしたちは十字架につけられたからです。
 - 4. わたしたちは今や正しい妻という新しい身分だけを持っています。その中でわたしたちはキリストをわたしたちの夫としています。そしてわたしたちはもはや古い人にしただがって生きるべきではありません。すなわち、もはや古い人をわたしたちの夫とするべきではありません。
- D. 律法は、古い夫(古い人)のために意図され、古い夫(古い人)に対して与えられたので、古い人の死はまた、キリストの体を通してわたしたちを律法に対して死なせました。

III. わたしたちの古い人はキリストの体を通して、律法に対して十字架につけ

られました。それは、わたしたちが別の夫、すなわち死人の中から復活させられたキリストと結婚するためです——ローマ 7:4 前半：

- A. この「結合」が示していることは、妻としてのわたしたちの新しい身分において、わたしたちがキリストの復活の中で、パーソン、名前、命、存在において復活のキリストと有機的な結合を持っているということです。今や、わたしたちは新しい夫であるキリストと結婚しています——Ⅱコリント 11:2。
- B. キリストはわたしたちの夫ですから、わたしたちは彼に依存し、彼をわたしたちのかしらとしなければなりません——エペソ 5:23：
1. キリストをわたしたちの夫とすることの意味は、わたしたちであるすべて、わたしたちが持っているすべて、わたしたちが行なうすべてを終結させて、あらゆることにおいて彼に信頼するということです。
 2. キリストをわたしたちの夫とすることの意味はまた、わたしたちがキリストの中へと信じることです。
 3. わたしたちは、もはや自分自身によって生きるべきではなく、キリストによって生きるべきです。わたしたちは、キリストにわたしたちに代わって生きていただかなければなりません。
 4. わたしたちはもはや夫ではありません。古い人としてのわたしたちは十字架につけられました。今やキリストがわたしたちの夫です。
- C. キリストは、わたしたちのかしらであるだけでなく、わたしたちのパーソンとわたしたちの命でもあります——コロサイ 3:4。
- D. 一人の人が三一の神の中へと信じてバプテスマされる時、彼は別のパーソンと関係を持つようになります。すなわち、彼は別のパーソン、キリストと結婚します。

IV. 妻として、わたしたちは神に対して実を結びます——ローマ 7:4 後半：

- A. わたしたちは復活の中において、神に対して生きるとき、神に対して実を結びます。
- B. 再生された人として、妻として、わたしたちは神に対して実を結びます。これが意味することは、わたしたちの行なうあらゆることが、今や神と関係があるということです。
- C. ここに、死と神との間の鮮やかな対比があります。
- D. 「神に対して実を結ぶ」という句は、神が実として生み出されることを意味します：
1. こういうわけで、わたしたちであるすべてとわたしたちの行なうすべては、生ける神でなければなりません。
 2. わたしたちは神を生み出して、神のあふれ流れとしなければなりません。このようにしてわたしたちは、わたしたちの実としての生ける神を持ち、

神に対して実を結ぶようになります。

- V. わたしたちは、縛られていた律法に対して死にました。それは、わたしたちが律法から解放されるためです。わたしたちは、妻また新しい人として、もはや律法の下にいません——ローマ 7:6 :
- A. 律法は神を描写し、定義しています——レビ 19:2。
 - B. こういうわけで、律法は墮落した人に対して、多くの要求と規定を持っています。そして、そうすることによって、律法は罪を罪として識別し、人を罪の認識へと導きます——ローマ 3:20, 4:15, 5:20。
 - C. このようにして、人は律法によって暴露され、征服されます——3:19。
- VI. 妻としてわたしたちはまた、文字の古さの中ではなく、霊の新しさの中で主に仕えるべきです——ローマ 7:6 :
- A. 第 6 章 4 節には、命の新しさがあり、それはわたしたちの生活のためです。第 7 章 6 節には、霊の新しさがあり、それはわたしたちの奉仕のためです：
 - 1. 命の新しさは、わたしたちがキリストの復活と結合されることからやって来るものであり、わたしたちの日常生活の歩みのためです。
 - 2. 霊の新しさは、わたしたちが律法から解放されて、復活したキリストに結合されることからやって来るものであり、神に対するわたしたちの奉仕のためです。
 - 3. 霊の新しさも命の新しさも、古い人が十字架につけられた結果です。
 - B. 命の新しさも霊の新しさも、その霊と関係があります：
 - 1. 命の新しさは、復活の中にあるキリストご自身と関係があり、彼は命を与える霊です——I コリント 15:45 後半。
 - 2. 「霊の新しさ」という句の中の「霊」は、わたしたちの再生された人の霊を指しており、その中にその霊としての主が住んでいます——II テモテ 4:22 :
 - a. わたしたちは霊の新しさの中で仕えることができます。なぜなら、神はわたしたちの霊を更新してくださったからです。
 - b. わたしたちの再生された霊に関するあらゆることは、新しいです。
 - c. わたしたちの再生された霊は、新しさの源です。なぜなら、主、神の命、聖霊は、わたしたちの再生された霊の中におられるからです。
 - d. わたしたちの再生された霊の中にあるあらゆるものは、新しいです。わたしたちの再生された霊の中には、新しさだけがあります。
 - C. わたしたちが認識する必要のあることは、わたしたちが新しい人として、古い人の律法から解放されており、わたしたちの新しい夫、復活したキリストに結婚させられているということです。それはわたしたちが神に対して実を結び、霊の新しさの中で主に仕えるためです。

内住するキリスト

聖書：ローマ 8:9-11, 28-29

- I. ローマ第8章は全聖書の焦点また宇宙の中心であると考えられます。こういうわけで、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心にいるのです。
- II. ローマ第8章は教理的な章ではなく、経験的な章です。それは三一の教理について語っているのではなく、クリスチャン生活の経験における三一について語っています。
- III. ローマ第8章は、信者たちの生活のために、命の霊の法則としての手順を経た三一の神が神聖な命を信者たちに与えることを啓示しています——ローマ 8:2, 6, 10-11, 26-29。
- IV. ローマ第8章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える霊に関してです。この霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリストと完全に同じにならせます。これがローマ第8章です。
- V. 「確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです」——ローマ 8:9 前半：
 - A. この章がわたしたちに明らかにしているのは、どのようにして三一の神、すなわち、父(15節)、子(3, 29, 32節)、霊(9, 11, 13-14, 16, 23, 26節)がご自身を命として(2, 6, 10, 11節)、三部分(霊、魂、体)から成る人であるわたしたちの中へと分与し、わたしたちを彼の子たちとならせ(14-15, 19, 23, 29, 17節)、キリストのからだを構成するかということ(12:4-5)。
 - B. わたしたちが三一の神の霊にわたしたちの中でご自身のホームを造っていただくなら、わたしたちの経験においてわたしたちは霊の中におり、もはや肉の中にはいません。
 - C. わたしたちがそのようであるなら、三一の神はその霊としてわたしたちの霊から(8:10)、わたしたちの思い(6節)によって代表されるわたしたちの魂の中へと拡大し、最終的に彼はわたしたちの死ぬべき体にさえ命を与えます(11節)。
- VI. 「もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません」——ローマ 8:9 後半：
 - A. このことは、わたしたちがキリストのものであることが彼の霊にかかっていることを示しています。
 - B. もしキリストの霊がないなら、あるいはもしキリストがその霊でないなら、わたしたちがキリストに結合されてキリストに属することはできません。

- C. しかしながら、キリストはその霊であり(Ⅱコリント 3:17)、彼はわたしたちの霊の中におられ(Ⅱテモテ 4:22)、わたしたちと一つ霊です(Ⅰコリント 6:17)。
- D. 神の霊とキリストの霊は二つの霊ではなく、一つ霊です。
- E. パウロはこれらの称号を交換的に用いています。それが示しているのは、ローマ第 8 章 2 節の内住する命の霊が、三一の神全体のすべてを含む命を与える霊であるということです。
- F. 9 節で神、その霊、キリストがすべて述べられています。
- G. わたしたちの中におられるのは三者ではありません。ただひとり、すなわち、三一の神の三一の霊がおられます——ヨハネ 4:24. Ⅱコリント 3:17. ローマ 8:11。
- VII. 「しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です」——ローマ 8:10 :
- A. 「キリストがあなたがたの中におられる」は、ローマ人への手紙における極めて重要な点です :
1. 第 3 章で、キリストは十字架におられ、ご自身の血を流して、わたしたちを贖いました。
 2. 第 4 章で、キリストは復活の中にあります。
 3. 第 6 章で、わたしたちはキリストの中にいます。
 4. 第 8 章で、キリストはわたしたちの中のその霊です。
- B. わたしたちが主を信じる前、内側のわたしたちの霊は死んでおり、外側のわたしたちの体は生きていました。
- C. 今やわたしたちの中にはキリストがおられるので、外側のわたしたちの体は罪のゆえに死んでいますが、内側のわたしたちの霊は義のゆえに命です。
- D. キリストが命としてわたしたちの中へと入って来ることは、わたしたちの体の死の状態を暴露します。
- E. わたしたちの霊の中には、義としての霊なるキリストがおられ、命という結果になります。しかし、わたしたちの肉の中には罪としてのサタンがおり、死という結果になります。
- F. 人の墮落を通して、罪が死をもたらし、人の体に入り、それを神の事柄において死なせ、無力にしました :
1. 神は肉体において罪を罪定めしましたが(3 節)、この罪は、人の墮落した体から引き抜かれたり、根絶されたりしませんでした。
 2. このゆえに、わたしたちの体は依然として死んでいます。
- G. ローマ第 8 章 10 節の霊は、再生された人の霊であり、墮落した人の体と対照的です。
- H. 霊が義のゆえに命であることは、わたしたちの人の霊を指しているの

あって、神の霊を指しているではありません。

- I. わたしたちの霊は再生されているだけでなく、生かされており、命となっています：
 1. わたしたちがキリストを信じたとき、彼は神聖な命の霊としてわたしたちの霊の中へと入って来て、ご自身をわたしたちの霊とミングリングしました。
 2. それによって、二つの霊は一つ霊となりました——Iコリント6:17。
- J. 神の義認において、わたしたちは義を受け入れました。義は、わたしたちの存在の中へと、すなわち、わたしたちの霊の中へと入る三一の神ご自身です——ローマ8:10：
 1. この義は命という結果になります——5:18, 21。
 2. 今やわたしたちの霊は生きてだけでなく、命です。
- VIII. 「イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」——ローマ8:11：
 - A. この節には三一の神全体があります。それは「イエスを死人の中から復活させた方」、「キリスト」、「あなたがたの中に住んでいる彼の霊」です。
 - B. キリストがご自身を信者たちの中へと分与していることは、「あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます」という言葉によって示されているように、分与がわたしたちの存在の中心で起こるだけでなく、円周まで、すなわちわたしたちの全存在にまで到達することを示しています。
 - C. 「命を与えてくださいます」が示しているのは、神聖ないやしではなく、わたしたちが神の霊にわたしたちの中にご自身のホームを造っていただき、神聖な命をもってわたしたちの全存在に浸透していただいた結果です。
 - D. こうして、彼はご自身の命をわたしたちの死ぬべき、死につつある体を与えて、それをいやすだけでなく、それを生かして、ご自身のみこころを遂行させます。